

特別養護老人ホーム愛敬苑事業計画

令和3年3月31日

1, 利用について

特養の利用率は一昨年度に比較して増加してきましたが、令和3年度は短期入所から特養へ転換を図るべく本部と一体となって進めていきたいと思えます。

その理由は、杉並区内の胃瘻、腸瘻、膀胱留置バルーンなどを利用している人たちの増加に起因しています。これらを利用している人の老人介護施設の受け入れがほとんどないということです。当苑では受け入れを考えていますが、今のままではベッド数が不足していますので、利用数が減少している短期入所事業からの転換が最も大事という考えから監督官庁である杉並区にお願いしているところですが、2年度後半3月に再度お願いに上がりました。3年度も同様に伺いたいと考えています。

2, 新施設計画

1の状態から杉並区においても特養あるいはサ高住の需要は高まるばかりです。その需要にこたえるべく新規建設を検討していきたいと考えています。3年度は具体的に進めていきたいと思えます。

3, 減価償却期間を経た器具備品について

当苑においては減価償却期間を迎える器具備品出始めていますので、故障、使用頻度の観点を見極めつつ3年度は買い替えを思慮したいと思います。

4. インフォメーション、HPの充実

インフォメーションは、初年度不定期に開始しました、約2年が過ぎ発行は1200をこえています。さらに踏み込んだ記事にしようと思います。また、HPの充実も重要で委託する方向検討しています。3年度は委託し充実したいと思います。

5. イベントその他

コロナ禍の中地域との連携が果たせない状態が続いていますが、イベントの開催も利用者の喜びにつながるものと考えます。アニマルセラピーその他イベントを開催するべく模索したいと思います。